

平成21年12月期 第2四半期決算のご報告

(第2四半期連結累計業績)

売上高、損益とも計画を上まわる

(百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2009年12月期2Q(計画)	299	△276	△211	△215
2009年12月期2Q(実績)	318	△162	△158	△162
増減額	19	113	52	52

売上高318百万円(第2四半期連結累計期間)

■売上高が計画を上回った主たる理由

- ・アッセイ開発が予想以上に好調
- ・キナーゼタンパク質のバルクオーダーが増加

■損益改善の主たる理由

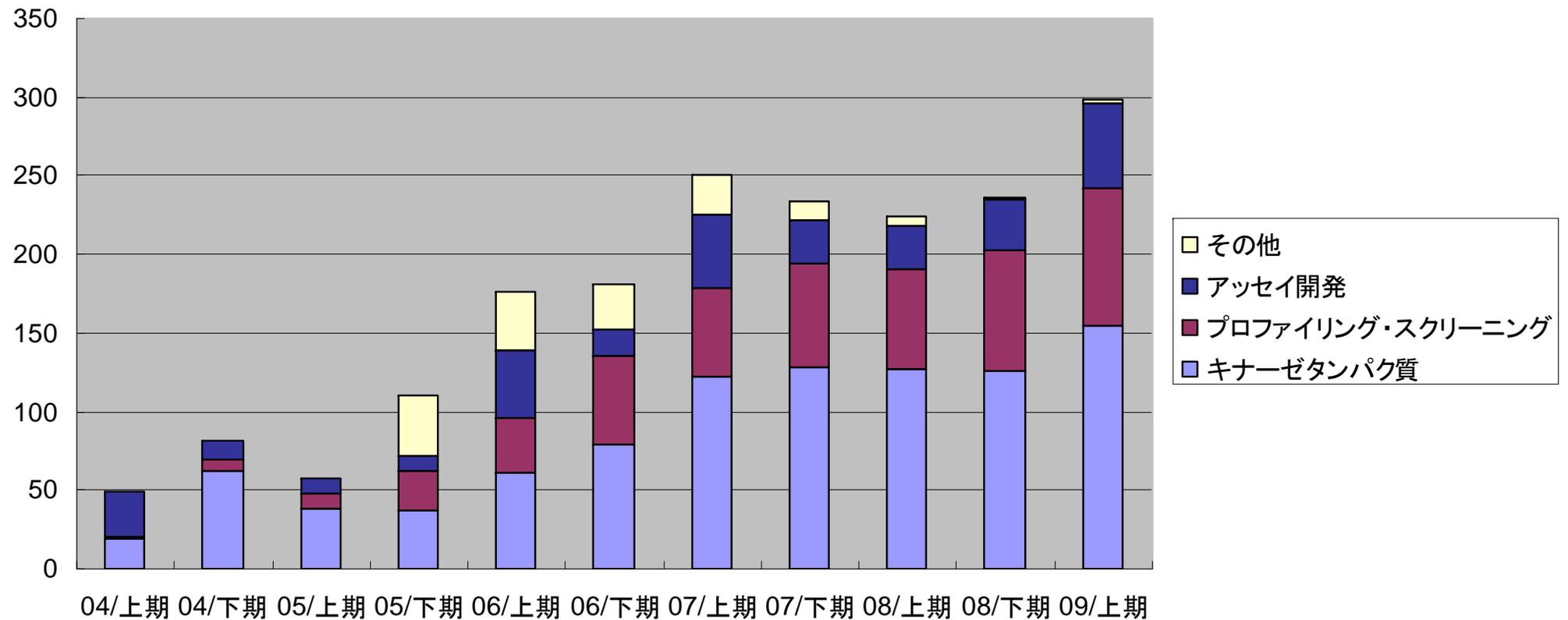
- ・売上高の増加
- ・プロファイリングサービスの採算向上
- ・経費削減努力
- ・研究開発の効率化

トピックス

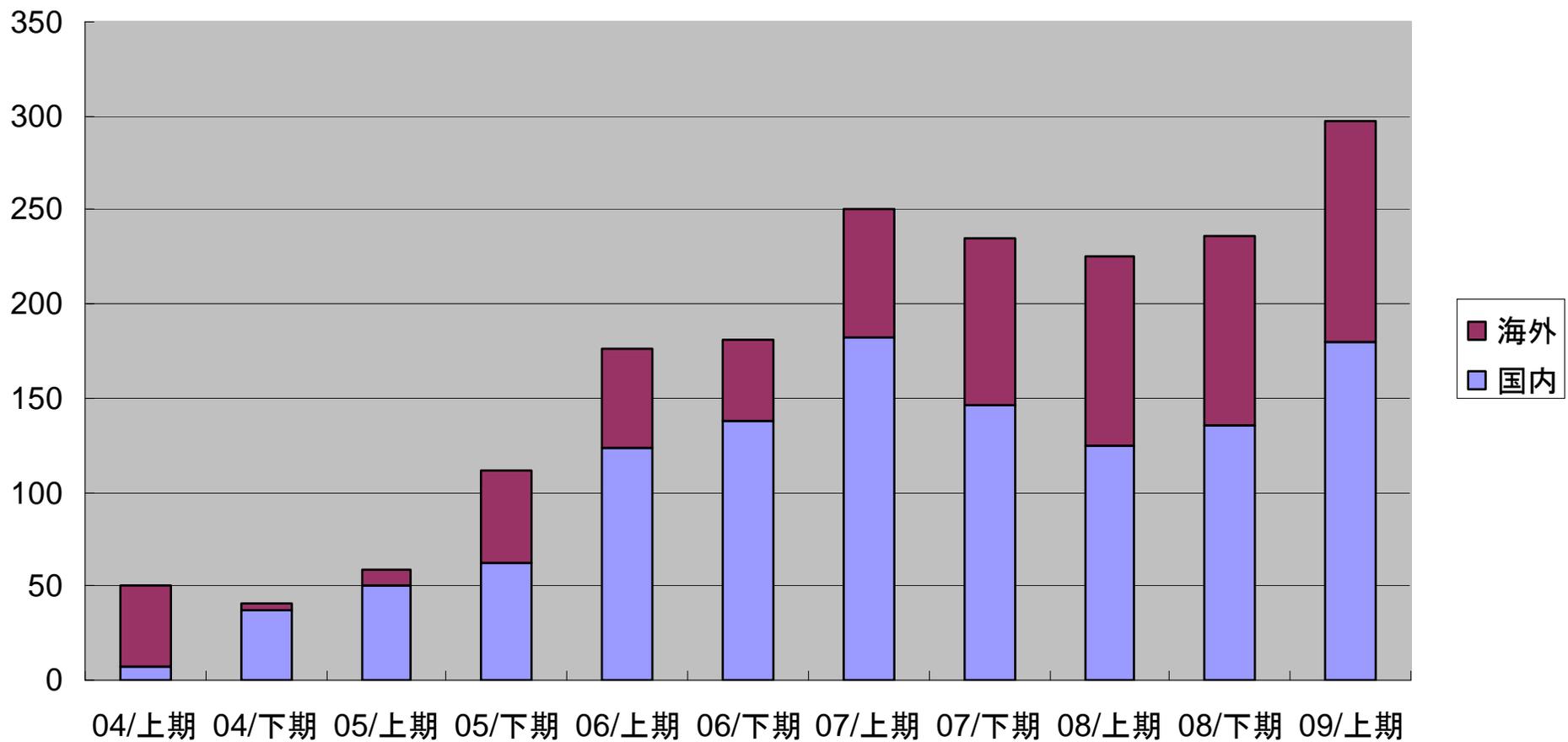
**科研製薬株式会社との共同研究契約を締結
(2009年6月23日プレスリリース)**

商品別売上高(創薬支援事業)

(百万円)



(百万円) **地域別売上高(創薬支援事業)**



第2四半期（2009年1月～6月）の業績の概況

（百万円）

		2009年12月期 2Q(1月～6月)実績	2009年12月期 2Q(1月～6月)計画/増減額	
売上	創薬支援事業	298	279	19
	創薬事業	20	20	0
	合計	318	299	19
売上原価		94	110	△16
売上総利益		224	189	35
販管費	研究開発費	172	191	△18
	販管費(研究開発費を除く)	214	274	△59
	合計	387	465	△78
営業利益		△162	△276	113
営業外損益		4	64	△60
経常利益		△158	△211	53
特別損失		3	3	0
当期純利益		△162	△215	52

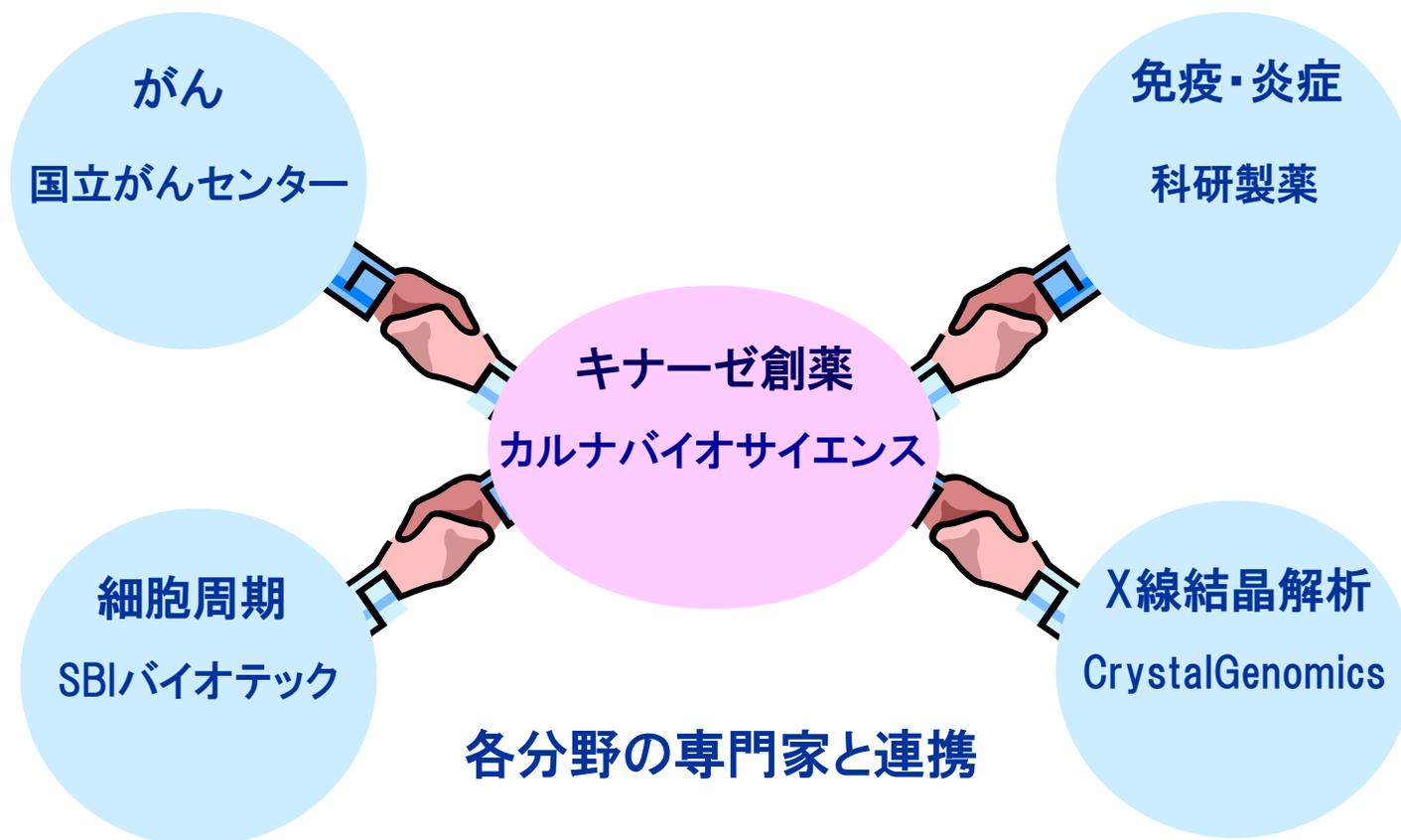
※ 平成21年8月13日に、「マイルストーン開示に係る事業計画の修正について(平成21年12月期～平成23年12月期)」を公表しております

(百万円)

	09年2Q末		08年12月末		増減額
		構成比		構成比	
流動資産	1,412	79.3	1,705	82.4	△292
※ 現金及び預金	706	39.7	831	40.2	△125
※ 有価証券	501	28.1	700	33.8	△199
その他	204	11.5	173	8.4	31
固定資産	368	20.7	365	17.6	3
資産合計	1,781	100.0	2,070	100	△289
負債合計	122	6.9	281	13.6	△159
株主資本計	1,633	91.7	1,795	86.7	△162
評価・換算差額等	25	1.5	△6	-	32
負債・資本合計	1,781	100.0	2,070	100.0	△289

※有価証券は、リスクの極めて低い運用商品です

借入金は返済済みで、
残高ゼロです



ステージ アップ数	前臨床⇒臨床(又は導出)			1	1
	探索⇒前臨床(又は導出)		1	1	1
研究テーマ数		5	5	5	5

平成20年

平成21年

平成22年

平成23年

中期計画について

通期業績予想数値の修正(連結)

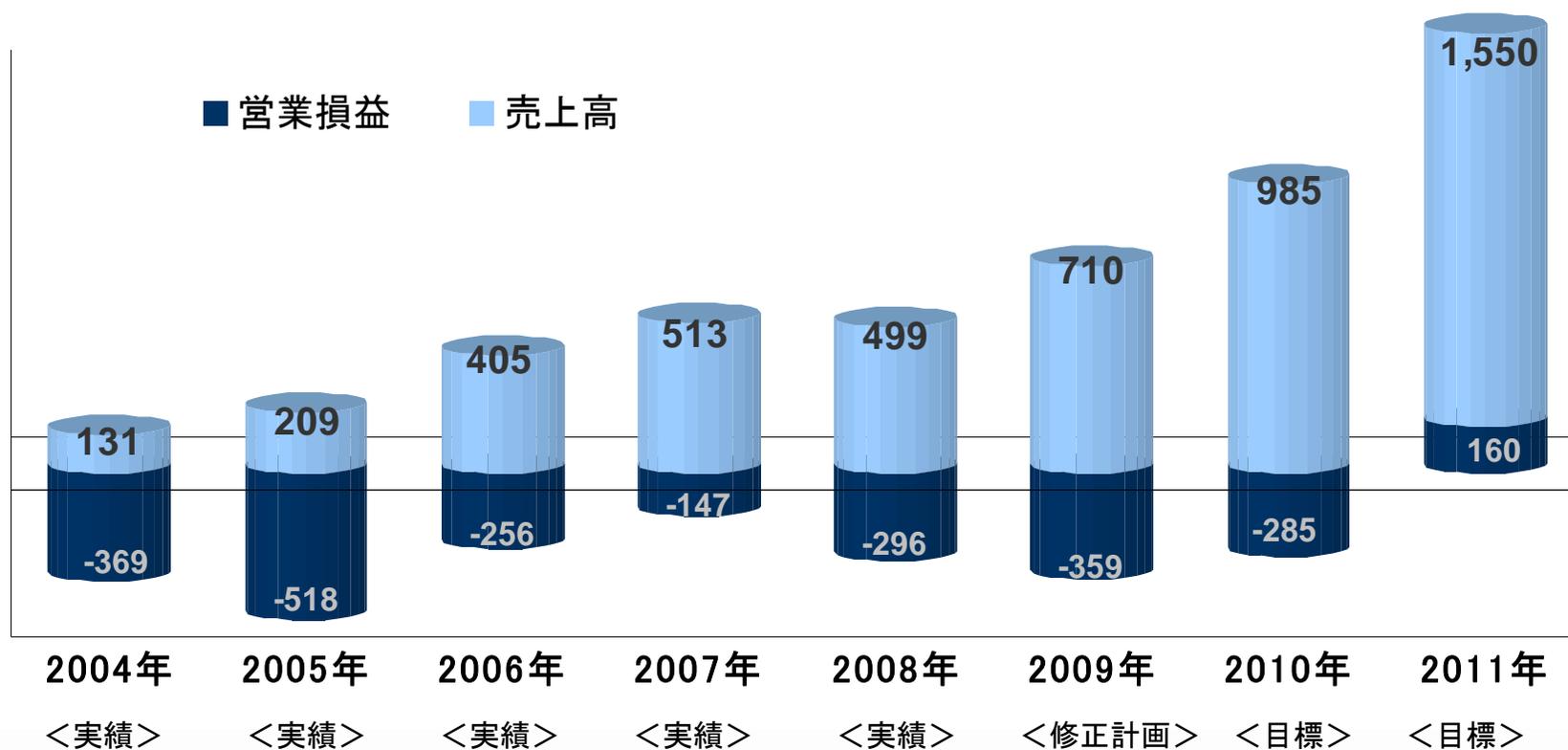
(百万円)

連結	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2009年12月期(修正前)	710	<u>△466</u>	<u>△399</u>	<u>△393</u>
2009年12月期(修正後)	710	<u>△359</u>	<u>△372</u>	<u>△363</u>

※ 詳細については、2009年8月13日発表の「マイルストーン開示に係る事業計画の修正について(平成21年12月期～平成23年12月期)」をご覧ください

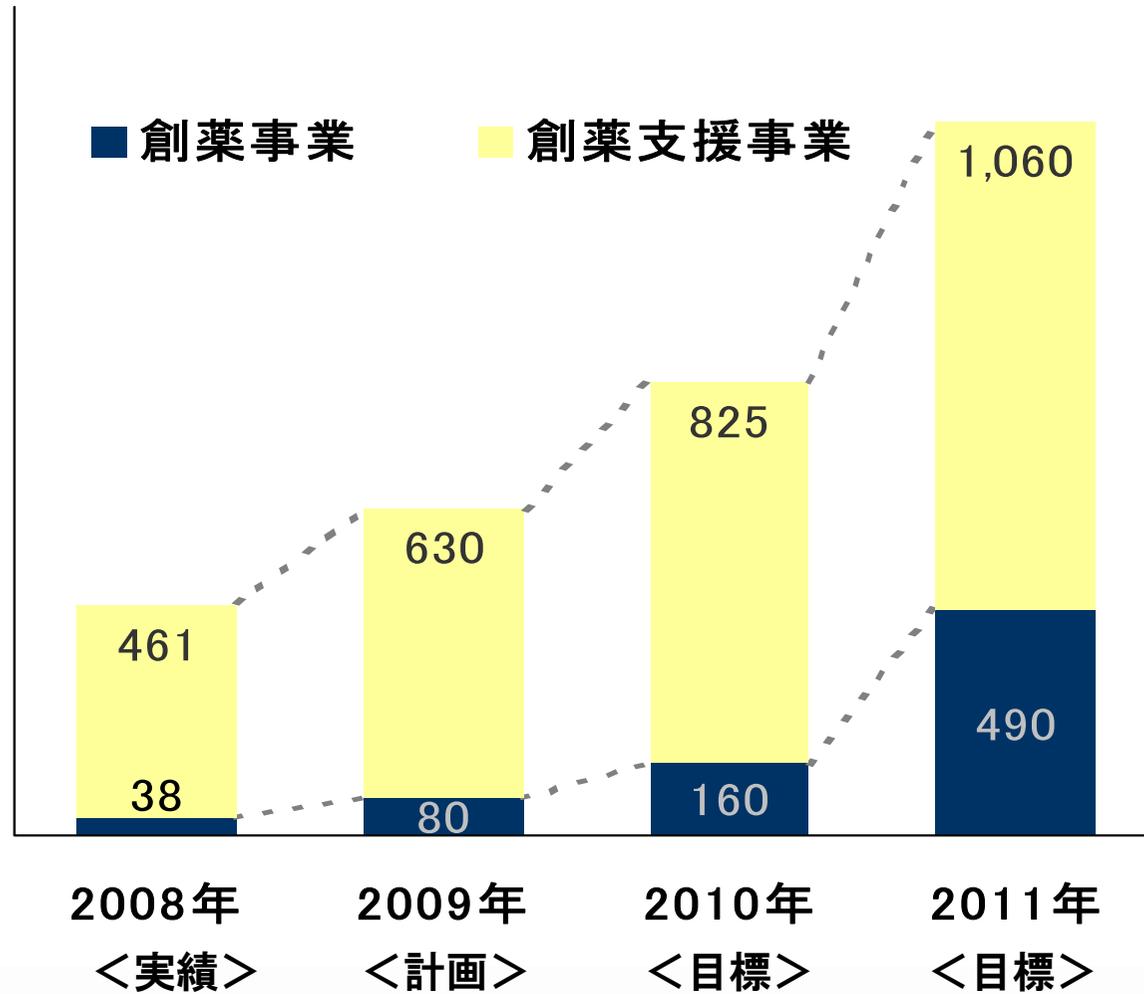
(百万円)

連結	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2009年12月期(修正計画)	710	△359	△372	△363
2010年12月期(目標)	985	△285	△285	△301
2011年12月期(目標)	1,550	160	160	144



事業別計画

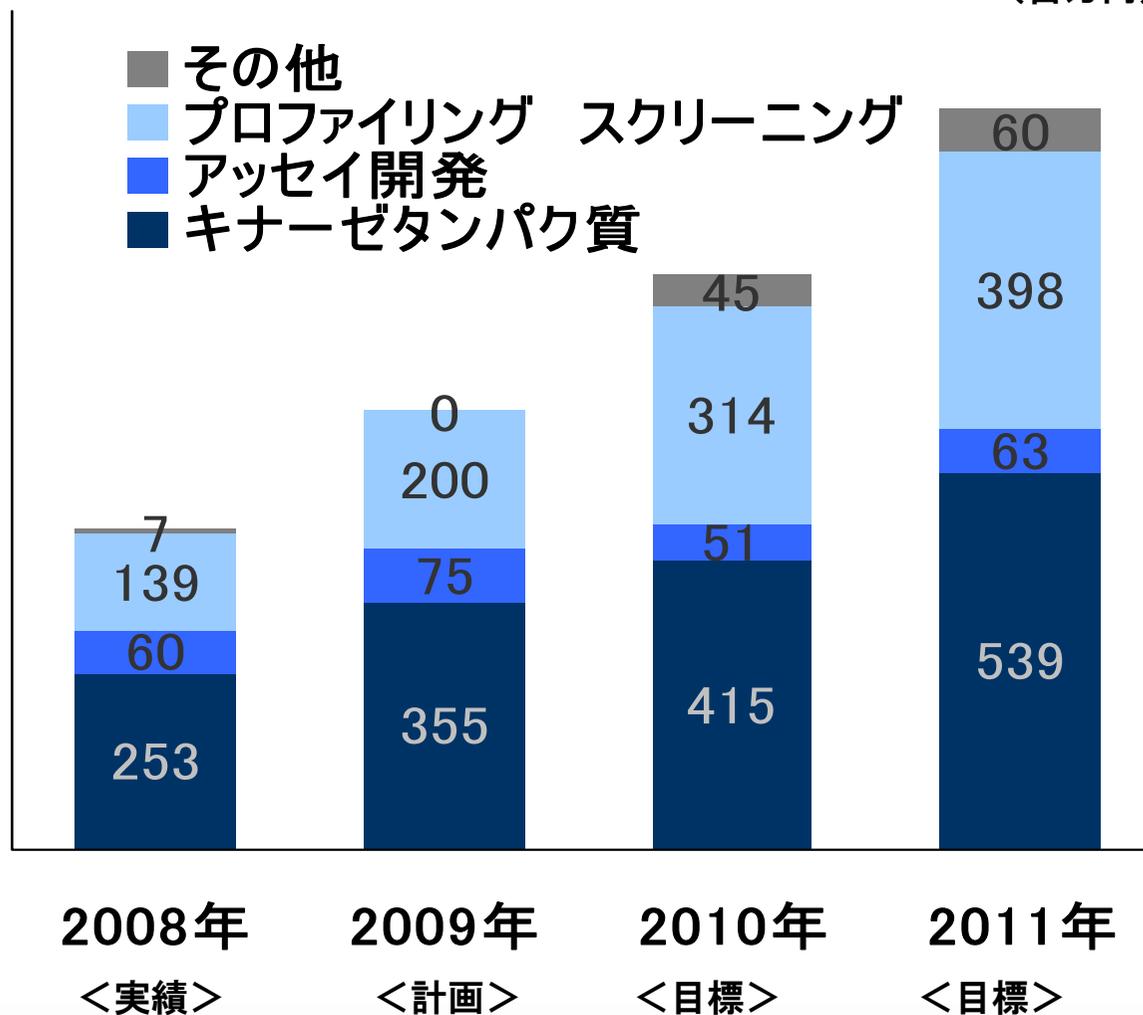
(百万円)



商品別計画

(百万円)

- その他
- プロファイリング スクリーニング
- アッセイ開発
- キナーゼタンパク質



主力3つの製品及びサービスである、キナーゼタンパク質、アッセイ開発(アッセイキットおよびアッセイ系開発サービス)、プロファイリング・スクリーニングサービスの提供・販売を拡大

□顧客ニーズに基づいた製品・サービスのメニューの拡充

□製薬企業との年間契約獲得

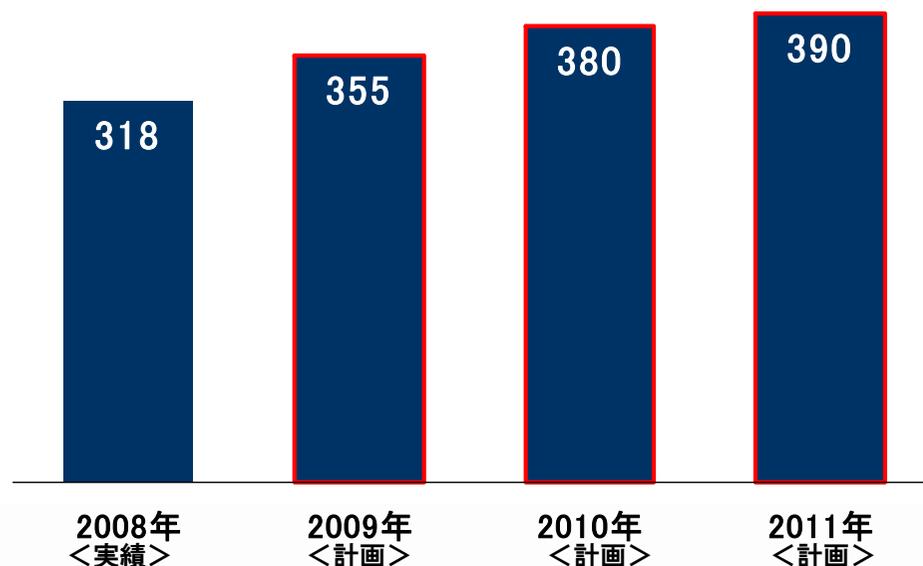
□新規顧客の開拓

参考:取引社数(2009年1月1日~6月30日の実績)

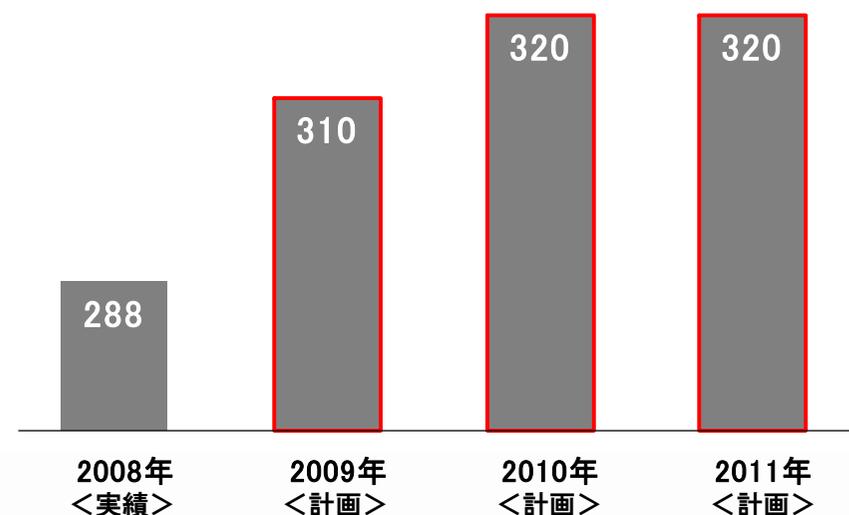
日本顧客	北米顧客	欧州顧客	その他	合計
55社	60社	21社	5社	141社

【キナーゼタンパク質 開発の計画】 (種類)

タンパク質キナーゼ、脂質キナーゼ、結晶化用キナーゼ



【アッセイ開発の計画】 (種類)



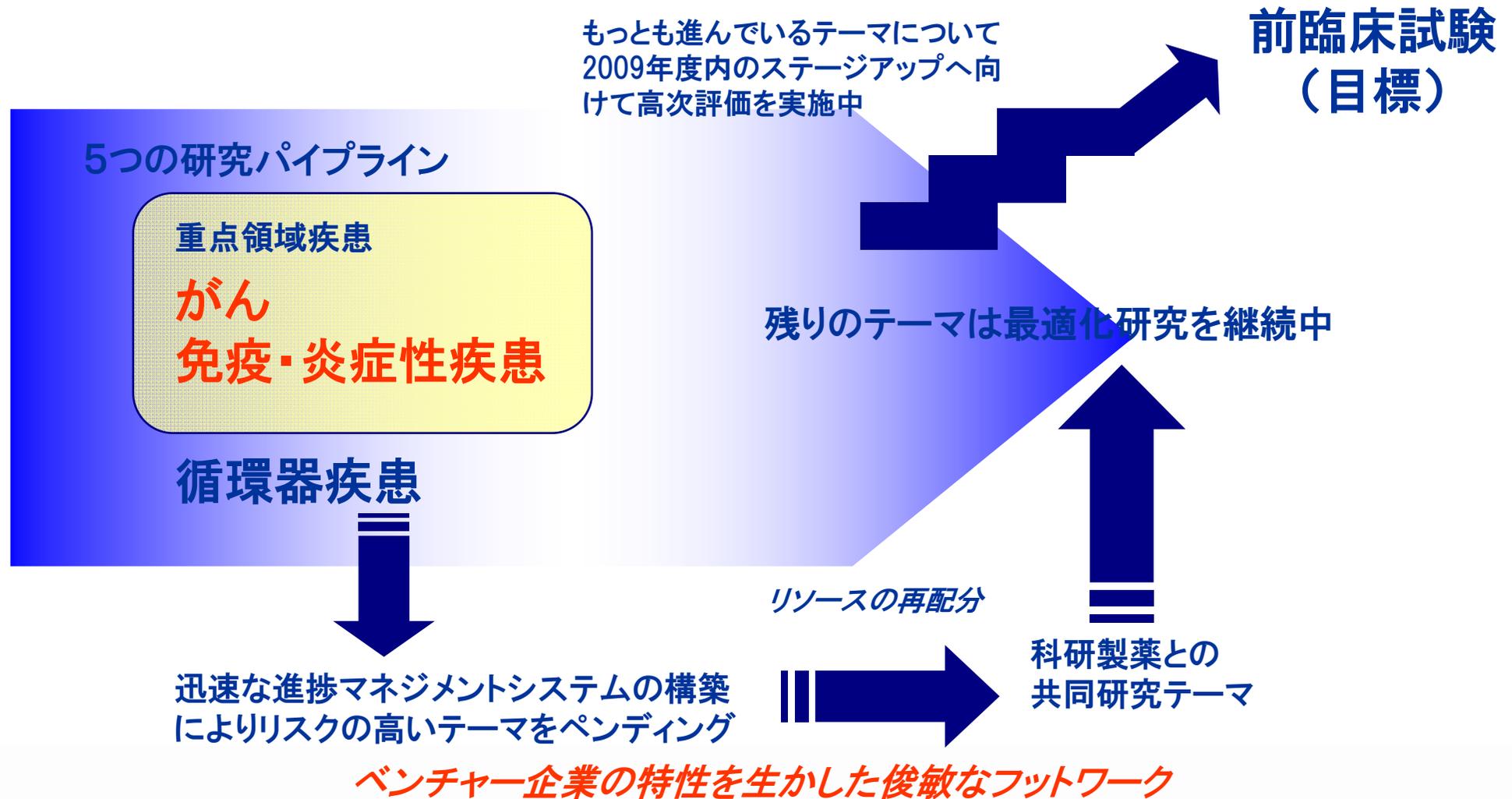
創薬基盤技術を駆使し、創薬研究期間を短縮化 早いタイミングでキナーゼ阻害薬の新薬候補化合物を創製して、早期導出を目指す

創薬の研究スペース拡充、人員拡充および最新設備への投資が平成20年度に前倒しで完了

- リソースを最大限に生かすため、ガンおよび免疫炎症性疾患を創薬重点領域とし、アカデミックや製薬企業との共同研究活用による研究効率化、成功確率の向上を目指す。
- 新規性の高いターゲットに関しても、基礎研究により創薬ターゲットとしての有効性を確認し、収益性の高い**first-in-class**を目指した自社創薬研究として積極的に研究活動を推進する。
- 探索研究段階後期にあるテーマについて早期導出を目指すとともに、探索段階初期にあるテーマについても、毎年1品目以上のステージアップを目標とする。
- さらに提携・導出戦略の積極的展開を進め、早期に創薬事業の体力強化を図る。
- 通常創薬研究では、導出・ドロップアウト等によりテーマ数が減少することがあるが、常に基礎研究段階に予備テーマを配置することにより、切れ目のないパイプラインの充足を目指す。

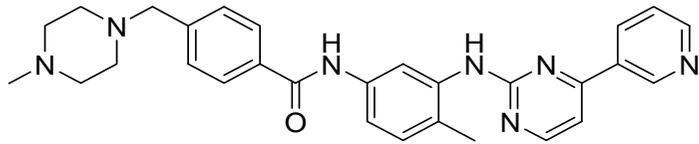
ステージ アップ数	前臨床⇒臨床(又は導出)			1	1
	探索⇒前臨床(又は導出)		1	1	1
研究テーマ数		5	5	5	5
		平成20年	平成21年	平成22年	平成23年

各研究テーマの見極めを迅速に行なう体制を構築し、タイムリーに成功確度に基づいたリソース配分・見直しを行ない、限りのあるリソースを最大限に活かしていきます。

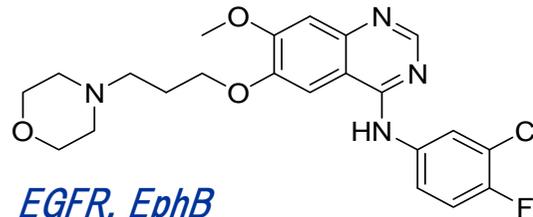


その他参考資料

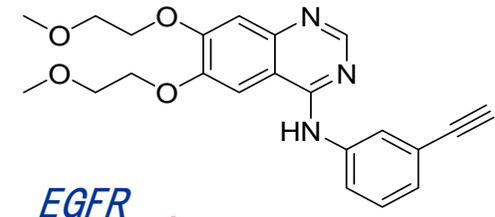
これまでに承認されたキナーゼを標的とする抗ガン剤(分子標的薬)



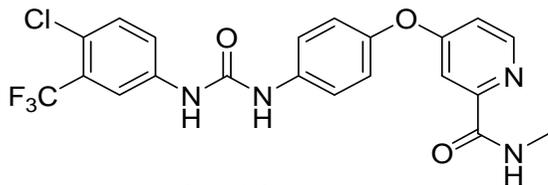
Bcr-Abl, Kit
Gleevec[®] (imatinib, 2001)
 Novartis
 慢性骨髄性白血病、消化管間質腫瘍



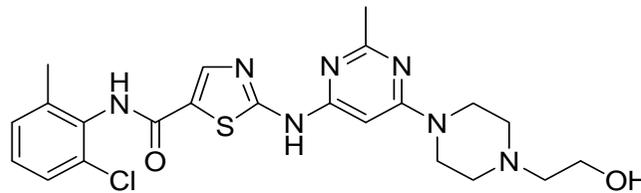
EGFR, EphB
Iressa[™] (gefitinib, 2003)
 AstraZeneca
 非小細胞肺癌



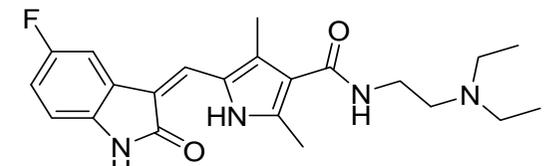
EGFR
Tarceva[®] (erlotinib, 2004)
 Roche(OSI)
 非小細胞肺癌、膵がん



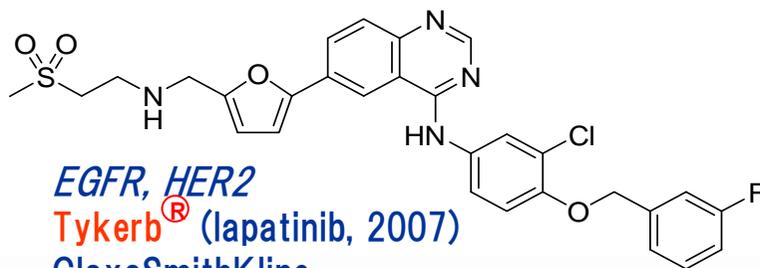
pan-tyrosine kinase
Nexavar[®] (sorafenib, 2005)
 Bayer (Onyx)
 腎細胞がん、肝細胞がん



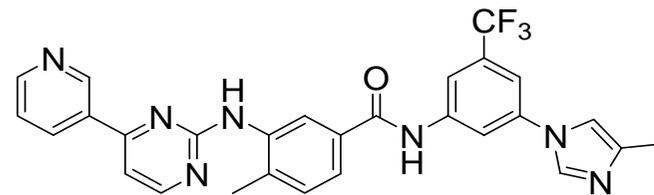
Bcr-Abl, Fyn, Src, Lck
Sprycel[™] (dasatinib, 2006)
 Bristol-Myers Squibb
 慢性骨髄性白血病



KDR, PDGFR-b, Kit, Flt3
Sutent[™] (sunitinib, 2006)
 Pfizer(SUGEN)
 消化管間質腫瘍、腎細胞がん



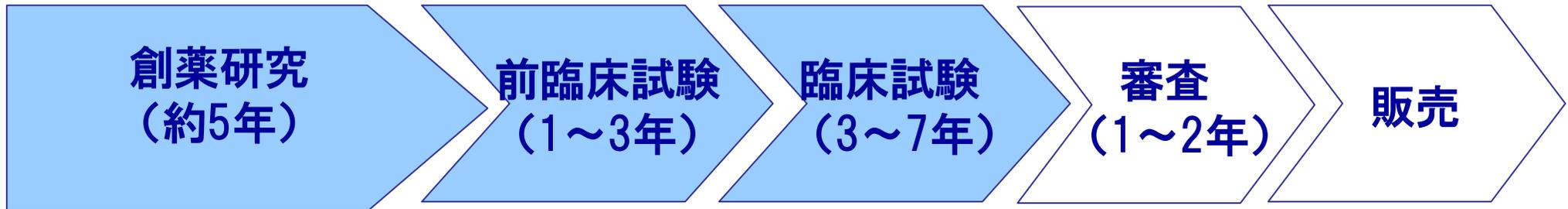
EGFR, HER2
Tykerb[®] (lapatinib, 2007)
 GlaxoSmithKline
 乳がん



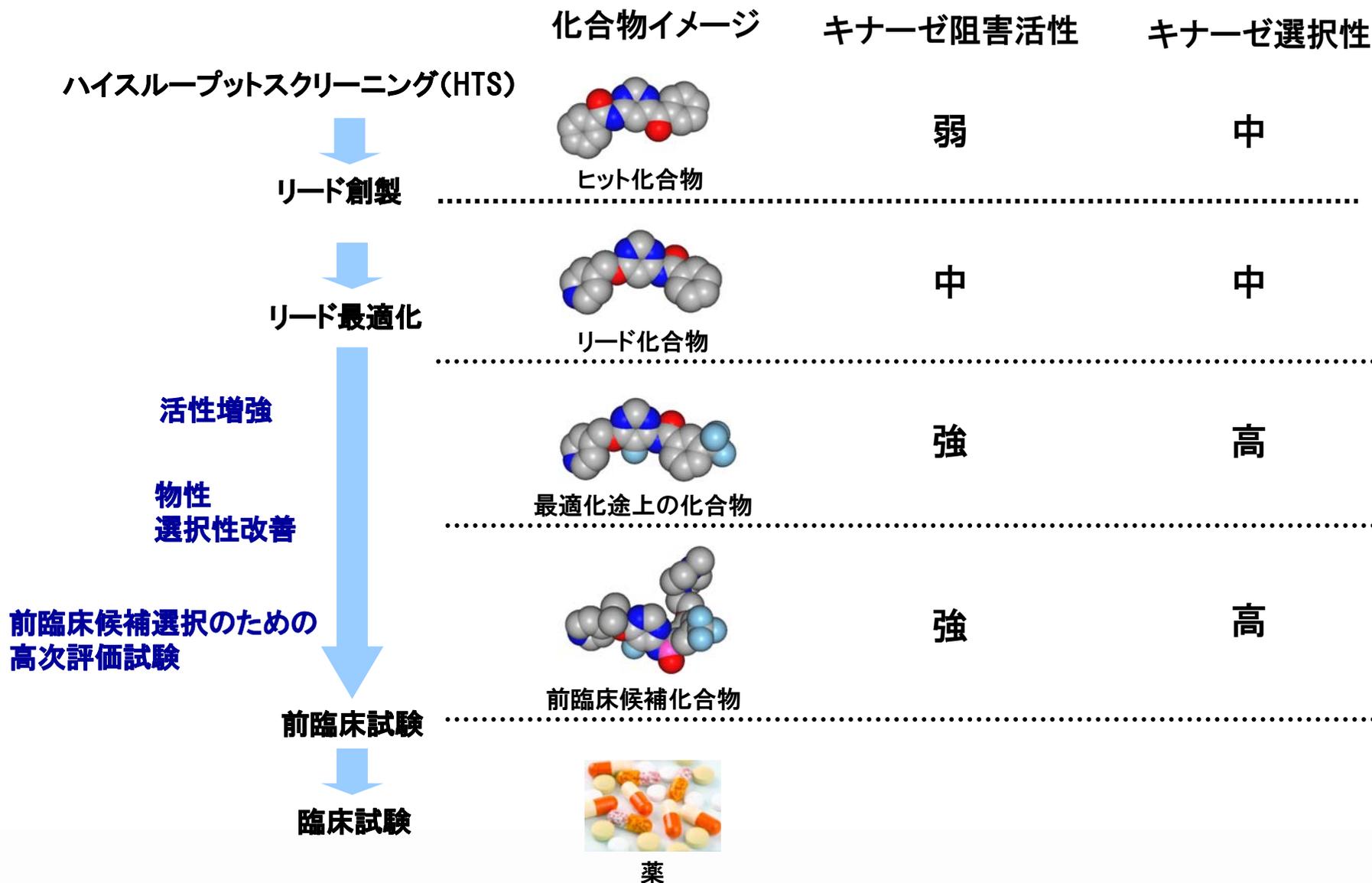
Bcr-Abl, c-Kit, PDGFR
Tasigna[®] (nilotinib, 2007)
 Novartis
 慢性骨髄性白血病

基礎研究・創薬研究

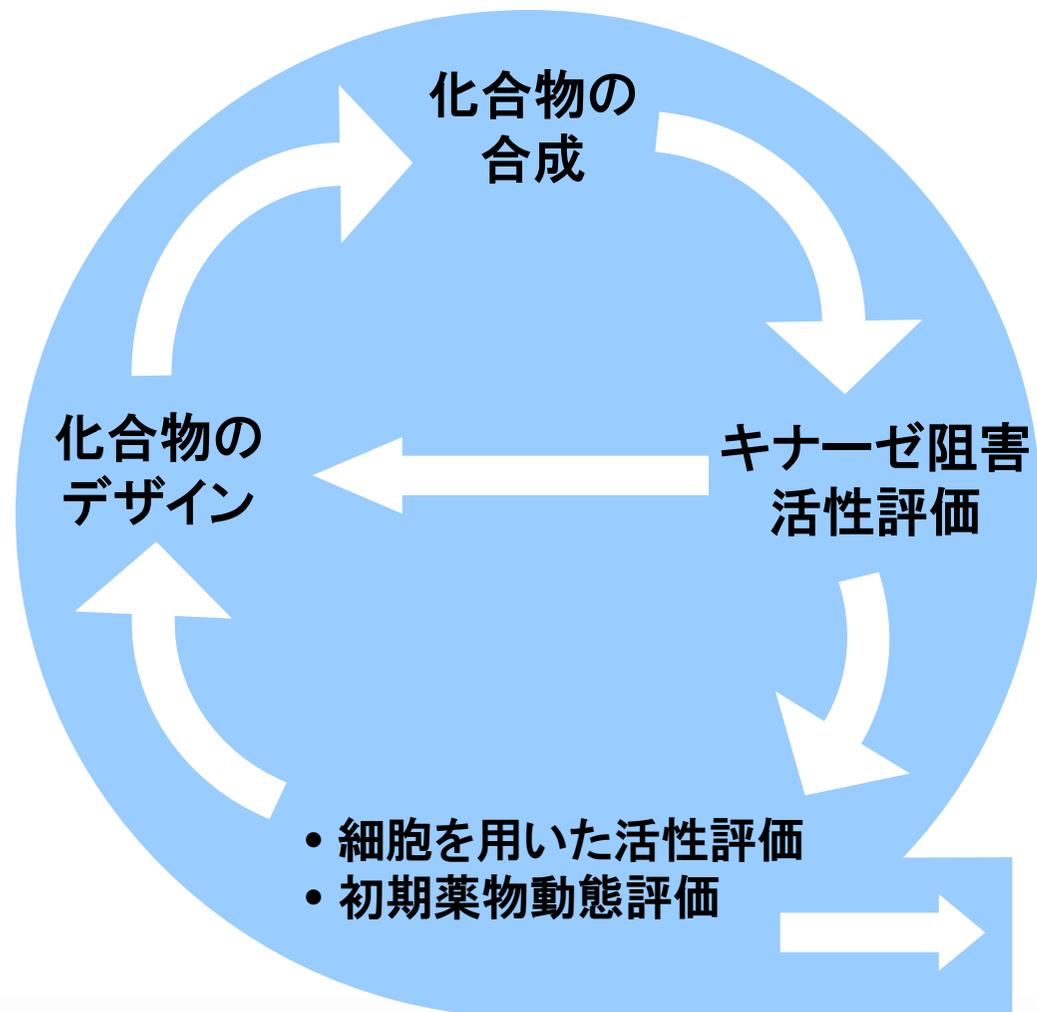
医薬品開発



当社は、■部分に特化

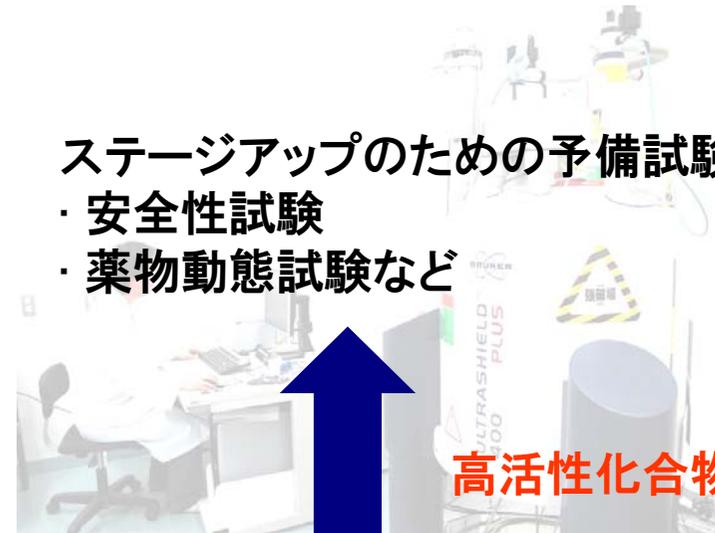


最適化サイクル



ステージアップのための予備試験

- ・ 安全性試験
- ・ 薬物動態試験など



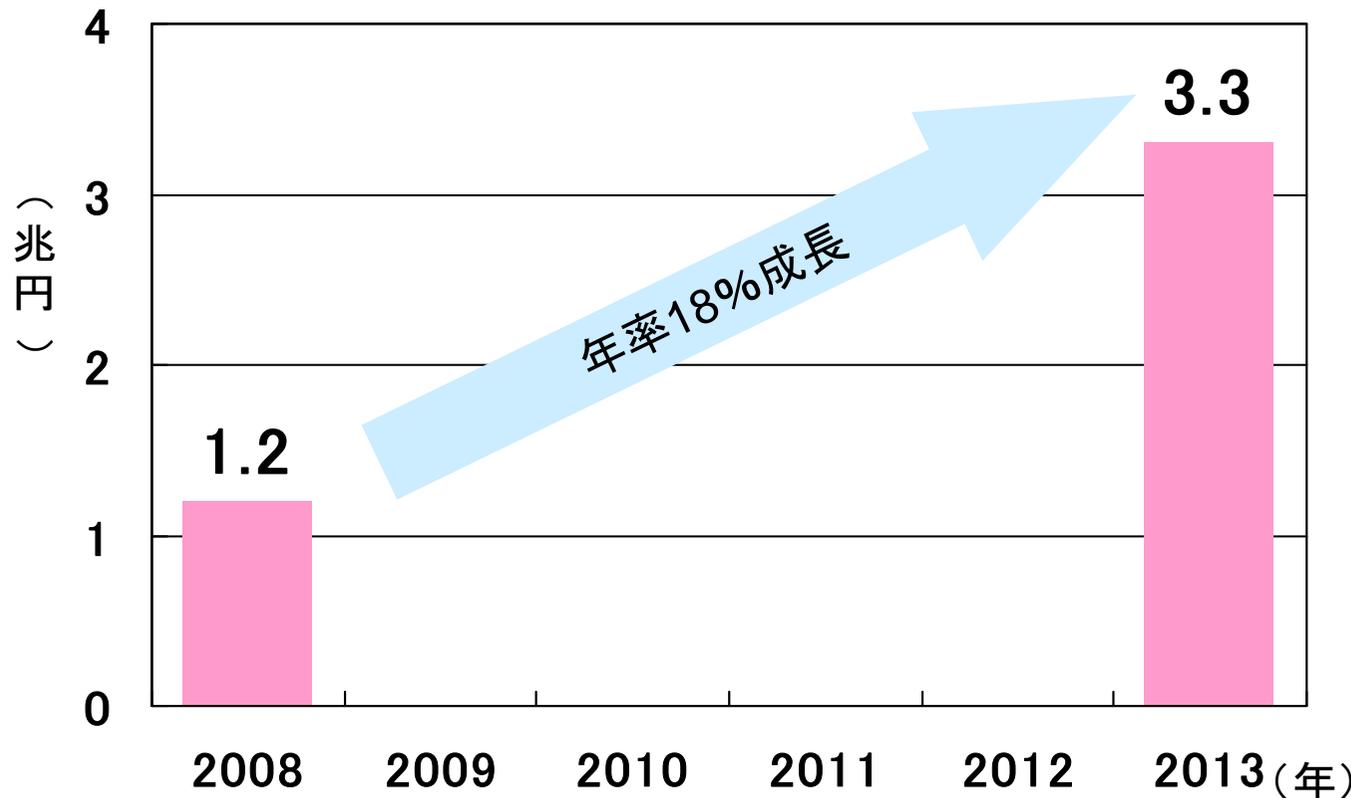
高活性化合物

動物モデルでの高次評価



高活性化合物

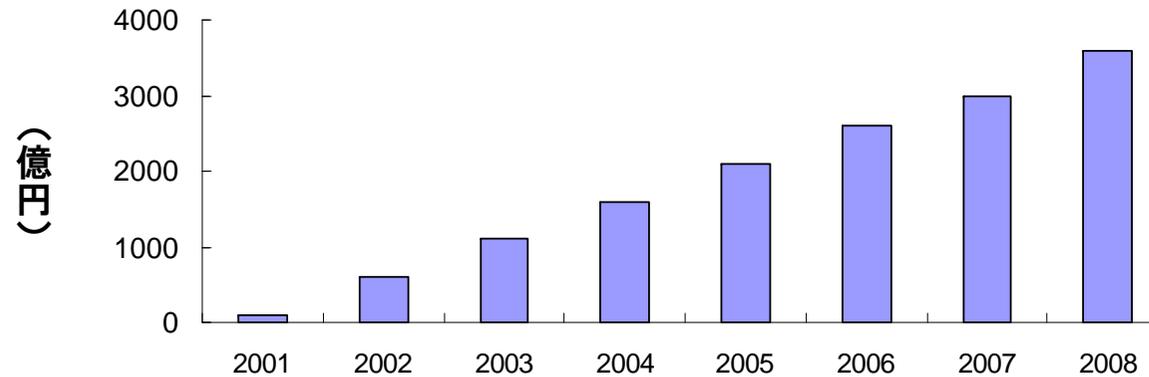
キナーゼを標的とした薬剤市場は、年率18%で成長し、
2013年には、3.3兆円市場に拡大(1ドル=95円で換算)



(出所) Report Identifies 608 Protein Kinase Drugs Under Development From 232 Originating Companies during the last decade, approvals for several first-in-class kinase inhibitors have resulted in a wider recognition of kinases as an important class of drug targets

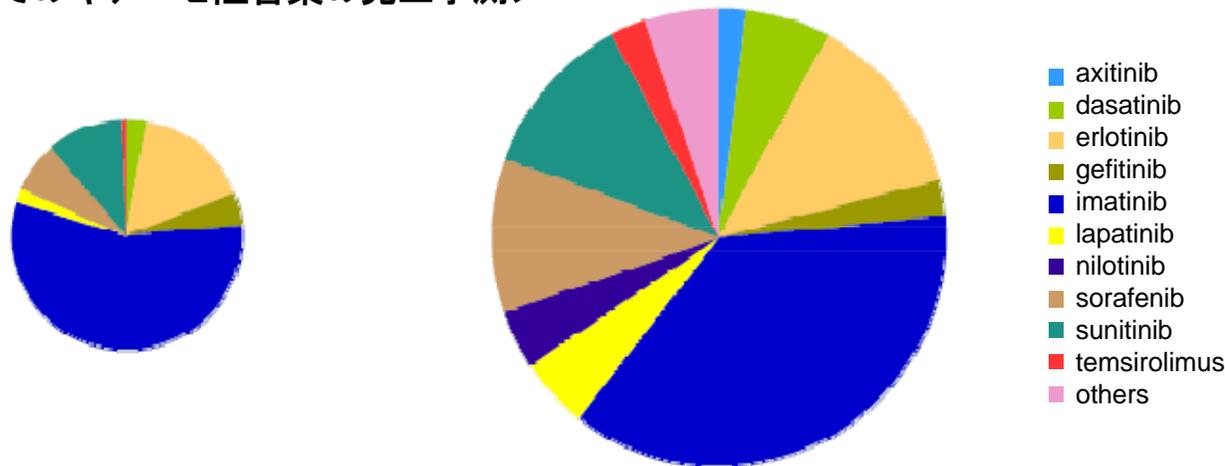
Published on July 30, 2009

<Gleevec®の売上推移(全世界)>



毎年 15%以上売上が上昇

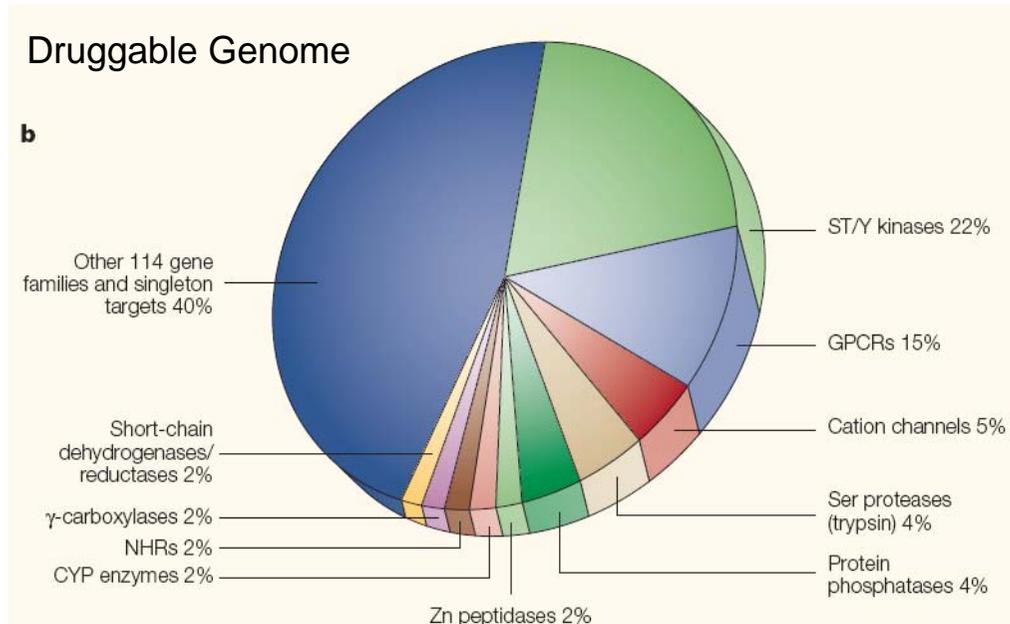
<ガン領域でのキナーゼ阻害薬の売上予測>



2007年の売上高
5,153億円(1ドル=95円で換算)

2012年の売上予想
11,927億円(1ドル=95円で換算)

Thomson-Pharma調べ



抗ガン薬としてのグリベックの大成功

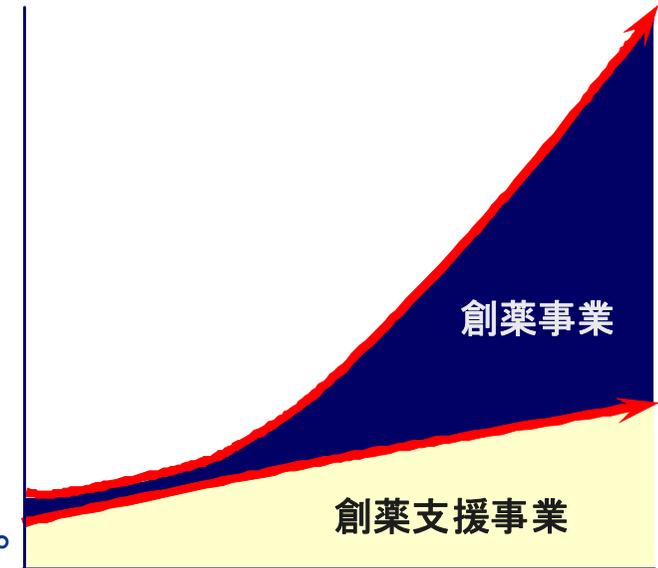


“分子標的薬”の効果立証

- ✓ 驚異的な効果
- ✓ 少ない副作用

キナーゼ阻害薬研究が一気に過熱

1. 当社の創薬事業は、従来の創薬ベンチャーとは異なり、コスト負担の大きい後期第2相臨床試験(フェーズ II b)以降の段階は手掛けず、それ以前のいずれかの段階で大手製薬企業に化合物を導出するビジネスモデルを想定しております。
2. 当社は創薬支援事業においては2006年度以降黒字化しております。今後も創薬支援事業での売上を伸ばすことで、2011年には、会社全体として黒字化を目指します。
3. 当社は、ガンなどを対象疾患とするキナーゼ阻害薬の創薬研究をスピーディーに進めてまいりますが、一般的には、創薬の成果が実るには長い年月がかかることをご理解下さい。
4. 中長期的には成長トレンドにあるため、カルナバイオサイエンスの株式は、中長期的視野で保有していただきたく存じます。



今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

カルナバイオサイエンス株式会社

経営管理本部 経営企画部

〒650-0047

兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F

Tel (078)302-7075 Fax (078)302-6665

<http://www.carnabio.com/japanese/>

ir-team@carnabio.com

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。